

平成 29 年 2 月 10 日

大阪経済記者クラブ各位

«同時資料提供»
大阪府政記者会
大阪市政記者クラブ

大阪府 府民文化部都市魅力創造局
文化・スポーツ課
大阪市 経済戦略局文化部文化課
公益財団法人 関西・大阪 21 世紀協会

平成 28 年度大阪文化祭賞受賞者の決定、贈呈式のご案内

大阪府、大阪市及び公益財団法人関西・大阪 21 世紀協会では、芸術文化活動の奨励と普及を図り、大阪の文化振興の機運を醸成することを目的に、大阪府内で上演された公演の中から優れた成果をあげたものに対して「大阪文化祭賞」を贈呈しており、今年で 53 回目の開催となります。

このたび、平成 28 年に大阪府内で開催された公演を対象に、独創性に富み、企画・内容・技法が総合的に優れていること等について厳正な審査をいたしました結果、各賞を決定いたしました。

つきましては、「平成 28 年度大阪文化祭賞」各賞受賞者への贈呈式を下記のとおり開催し、受賞者による受賞記念公演も実施いたします。

報道関係の皆様方には何かとご多端のおり恐縮ですが、当賞の趣旨に鑑み、広く告知・ご取材等のご協力を賜りたく、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

1. 平成 28 年度大阪文化祭賞 贈呈式 開催概要

- (1) 日時 平成 29 年 2 月 21 日 (火) 14:00 より
(13:30 受付開始、13:50 開場)
- (2) 会場 リーガロイヤル NCB 2 階 淀の間
大阪市北区中之島 6 丁目 2-27 TEL/06-6443-2251
14:00 ・開式・あいさつ
14:15 ・賞の贈呈
14:40 ・受賞者記念公演
小栗まち絵様
・閉式
15:00 ・記念写真撮影

なお、贈呈式後に下記の通り交流会を開催いたします。

- 【交流会】 会場 リーガロイヤル NCB 2 階 淀の間(贈呈式会場内)
15:05 ・交流会
16:00 ・終了予定

2. 平成28年度大阪文化祭賞 受賞者

大阪文化祭賞最優秀賞

- ・小栗まち絵
いずみシンフォニエッタ大阪 第37回定期演奏会における演奏

大阪文化祭賞優秀賞

- ・「妹背山婦女庭訓」出演者一同
四月文楽公演 通し狂言「妹背山婦女庭訓」の舞台成果
- ・MONO
「裸に勾玉」の舞台成果

大阪文化祭賞奨励賞

- ・片岡松十郎・片岡千壽・片岡千次郎
第二回あべの歌舞伎「晴の会」における片岡松十郎・片岡千壽・片岡千次郎の成果
- ・大阪女優の会
「あたしの話と、裸足のあたし」の舞台成果
- ・地主薫バレエ団 奥村唯
「人魚姫」の演技
- ・関西歌劇団
関西歌劇団第98回定期公演「皇帝ティートの慈悲」の成果

※副賞賞金として、大阪文化祭賞最優秀賞50万円、大阪文化祭賞優秀賞15万円、大阪文化祭賞奨励賞5万円がそれぞれ贈られます。

※各受賞者の受賞理由・略歴等は別添資料をご参照ください。

■この件に関するお問い合わせ・ご連絡先■

【大阪文化祭賞事務局】

公益財団法人関西・大阪21世紀協会 文化事業部 城本、今沢

e-mail / shiromotot@osaka21.or.jp

TEL/06-7507-2002 FAX/06-7507-5945

3. ご参考

1) 大阪文化祭賞とは

大阪文化祭賞の創設は昭和38年にまで遡り、これまで多くの芸術家、実演家が受賞しています。平成26年度からは、従来の5・6月開催公演のエントリー制を改め、対象を、年間を通して大阪府内で開催される全ての公演に変更しました。

審査は、関西の著名な芸術家・文化人・ジャーナリストらが、第1部門「伝統芸能・邦舞・邦楽」、第2部門「現代演劇・大衆芸能」、第3部門「洋舞・洋楽」の3部門について、公演を厳正に審査し、大阪文化祭賞最優秀賞、大阪文化祭賞優秀賞、大阪文化祭賞奨励賞を選考します。

《各受賞者の受賞理由・略歴》

大阪文化祭賞最優秀賞 1件

小栗まち絵

いずみシンフォニエッタ大阪 第37回定期演奏会における演奏

(おぐりまちえ/いずみしんぷおにえったおおさか だい37かいていきえんそうかいにおけるえんそう)

(第3部門：洋舞・洋楽)

バイオリニスト、小栗まち絵が自らコンサートミストレスを務める「いずみシンフォニエッタ大阪」の定期演奏会で、ソリストとして登場した。演奏したのはジャック・ボディの「ミケランジェロによる瞑想曲」(2007年、オリジナル版による日本初演)で、イタリア・ルネサンス期を代表する芸術家、ミケランジェロのソネットを題材にとった現代曲。決して派手なソロ部分があるわけでもなく、ともすれば断片的に演奏されてしまうこともあるだろうが、小栗はその豊穡なバイオリンの音色、歌心に満ちたフレージング、そして精神性や感情を音楽として伝える強烈な集中力でもって、時代を問わない音楽の普遍的な美しさと緊張感、親密性を会場に呼び覚まし、現代とルネサンス期をつなげて深い感動をもたらした。あらゆる曲に新たな命を吹き込むことのできる、たぐい稀なる感性を持ったバイオリニストとしてあらためてたたえたい。

また、彼女は日本屈指の指導者としても著名。夫の故・工藤千博とともに大阪から国内外で活躍するバイオリニストを多く育てた。今年、30年以上務めた相愛大学を定年になるが、長年、この大阪で音楽教育に尽くした功績についても合わせて評価したい。



【略歴】大阪生まれ。相愛音楽教室、桐朋学園高校音楽科を経て、1971年桐朋学園大学卒業。インディアナ大学アーティストディプロマ課程修了。ヴァイオリンを東儀祐二、江藤俊哉、ジョセフ・ギンゴールド、フランコ・グリ各氏に師事。室内楽を斎藤秀雄、ロバート・マン、メナム・プレスラー各氏に学ぶ。1968年日本音楽コンクール第1位、1972年ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリンコンクール特別賞、1976年エヴィアン(現・ポルドー)国際室内楽コンクール第1位大賞受賞。1974-1986年インターナショナル弦楽四重奏団のメンバーとして欧米を中心に活動。インディアナ大学助教授、ブラウン大学アーティスト・イン・レジデンスを歴任。1986年帰国。日本音楽コンクール、ABC新人コンサートオーディション、宗次エンジェルヴァイオリンコンクール等の審査員を務める。パッサカリアから邦人の現代作品まで幅広く取り組み、ソロ、室内楽、オーケストラリーダーとしての活躍、及び教育者としての功績に対して2004年度エクソンモービル音楽賞、2007年度大阪芸術賞特別賞、2009年度大阪市民表彰(文化功労部門)受賞。現在、いずみシンフォニエッタ大阪コンサート・ミストレス、サイトウ・キネン・オーケストラのメンバー、相愛大学教授、東京音楽大学特任教授。

大阪文化祭賞優秀賞 2件

「妹背山婦女庭訓」出演者一同

四月文楽公演 通し狂言「妹背山婦女庭訓」の舞台成果

(「いもせやまおんなていきん」しゅつえんしゃいちどう/しがつぶんらくこうえん とおしきょうげん「いもせやまおんなていきん」のぶたいせいか)

(第1部門：伝統芸能・邦舞・邦楽)

文楽屈指の時代物の大曲「妹背山婦女庭訓」の通し上演を、人形浄瑠璃文楽座の総力をあげて取り組み、文楽の本質である人間の情を迫力たっぷりに描き上げ、深い感動を与えた。現在、世代交代のまっただなかにある文楽にとって、同曲の通し上演は試金石ともいえるものだったが、ベテランから中堅、若手にいたるまで、太夫、三味線、人形遣いの三業の出演者全員が一体となり、鬼気迫る意気込みで大曲に立ち向かった。なかでも、太夫と三味線が舞台上手と下手の床に分かれて語る「妹山背山の段」は、近年では人間国宝の大ベテランの太夫がつとめていたが、今回は、五十歳代の竹本千歳太夫と豊竹呂勢太夫に一拳に若返り、人間国宝の三味線、鶴澤清治に牽引され、命がけとも思える語りを披露。この段の世界観をスケール豊かに造形し、抜擢に応えたことは特筆に値する。文楽の未来を占う上でも大きな成果を上げたことを評価したい。



【略歴】人形浄瑠璃文楽座は「人形浄瑠璃文楽」を後世に継承し、発展させることを目的としている。平成20年にユネスコにより「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載され、その芸術性の高さは世界に認められている。現在、技芸員は、太夫20名、三味線21名、人形41名、合計82名で構成され、大阪の国立文楽劇場で年4回の本公演と文楽鑑賞教室公演を、また東京国立劇場小劇場で年4回の本公演他をそれぞれ実施している。その他に、春秋の地方公演のほか、小公演を各地で開催し、文楽の普及に努めている。

MONO

「裸に勾玉」の舞台成果

(もの/「はだかにまがたま」のぶたいせいか)

(第2部門：現代演劇・大衆芸能)

関西発の劇団として全国的に活躍するMONO。旗揚げ以来ずっと京都に拠点を置いているが、新作公演の多くを大阪で行ってきた。

「裸に勾玉」の舞台は弥生時代。邪馬台国と敵対している狗奴国のある集落に、現代人がタイムスリップする。そこには争い、嫉妬、いじめ、許しなど現代社会と同じ構図があった。現代人は最初こそ混乱するものの、弥生人と共にこれらの問題に向き合っていく。

啓蒙的なせりふを使わず、弥生時代を舞台に今日的なテーマを示した作・演出の土田英生の視点は秀逸で、独自性がある。俳優陣のアンサンブルも豊か。弥生人の独特な言葉は現代日本語とは少し違うが、意味はじゅうぶん理解できる。単なるタイムスリップものではない、ユーモアを交えた上質な会話劇に仕上げた。また、弥生人の衣装や高床式倉庫・竪穴式住居の美術等、スタッフワークも優れ、総合的に高い成果をあげた。今後も演劇界を牽引する存在として力を発揮してほしい。



【略歴】平成元年、立命館大学の学生劇団 OB を中心に「B 級プラクティス」という名称で結成。平成 3 年「MONO」に改名。代表土田英生が作・演出を担当する。日常にありそうでない設定の中で、まるで隣にいるかのような市井の人々がコンプレックスを抱えながら生き、些細な意見の違いで人と人が対立する。笑いを交えた会話の中から、時には個人的な、時には社会的な問題が浮かび上がる。戦場慰問から逃げ出した芸人たちを題材にした『その鉄塔に男たちがいる』が平成 11 年第 6 回 OMS 戯曲賞大賞を受賞。会話の間と呼吸で作り上げる独特なアンサンブルが高く評価され、平成 21 年アントン・チーフ初期の短編集をモチーフとした『チーフを待ちながら』が第 64 回文化庁芸術祭優秀賞を受賞。平成 29 年 3 月に新作『ハテノウタ』を大阪、北九州、四日市、東京にて上演予定。

片岡松十郎・片岡千壽・片岡千次郎

第二回あべの歌舞伎「晴の会」における片岡松十郎・片岡千壽・片岡千次郎の成果

(かたおかまつじゅうろう・かたおかせんじゅ・かたおかせんじろう/だいにかいあべのかぶき「そらのかい」におけるかたおかまつじゅうろう・かたおかせんじゅ・かたおかせんじろうのせい)

(第1部門：伝統芸能・邦舞・邦楽)

上方歌舞伎の若き担い手である片岡松十郎、片岡千壽、片岡千次郎を軸に、一昨年旗揚げされた「晴の会」。昨夏は片岡秀太郎監修、山村友五郎演出・振付による「伊勢参宮神乃賑」を上演した。上方落語「東の旅」を題材にした上方色豊かな新作で、伊勢参りに向かう喜六と清八、遊女おこんや煮売屋の婆などを、主軸の三人らが力演。粗削りな内容ながら、観客を惹きつける存在感や表現力を見せ、成長ぶりを印象付けた。今後のさらなる活躍を期待し、奨励賞を贈る。



【略歴】三人は、ともに松竹・上方歌舞伎塾第一期生で平成11年3月大阪松竹座の『仮名手本忠臣蔵』で初舞台。片岡松十郎は、平成11年12月に片岡仁左衛門へ入門。平成24年12月南座の『仮名手本忠臣蔵』で名題昇進。精悍さと誠実さが持ち味の立役。片岡千壽は、平成11年12月に片岡秀太郎へ入門。平成24年12月南座の『廓文章』で名題昇進。芝居心とセンスの良さを感じさせる女方。片岡千次郎は、平成11年12月に片岡我當へ入門。平成25年12月南座の『敵島招檜扇』で名題昇進。安定した確かな演技力を持つ実力派で立役も女方もこなす。平成27年「晴の会（そらのかい）」を結成し、近鉄アート館にて第一回あべの歌舞伎公演を行う。

大阪女優の会

「あたしの話と、裸足のあたし」の舞台成果

(おおさかじょゆうのかい/「あたしのはなしと、はだしのあたし」のぶたいせい)

(第2部門：現代演劇・大衆芸能)

関西を拠点とする実力派の女優らが自発的に続けてきた戦争と平和を考える大阪女優の会の公演。14回目となった「あたしの話と、裸足のあたし」は構成・演出に樋口ミユを迎え、充実した朗読劇となった。とりわけすばらしい試みだったのが、90歳を超えてなお舞台上立つ河東けいを筆頭としたこれまでのメンバーに加え、平成生まれの10、20代の若手も参加したこと。河東が実際に体験した戦争の話を脚本に盛り込み、観客のみならず出演者にも戦争の悲惨さを伝える貴重な場となった。



【略歴】2003年アメリカによるイラク攻撃が始まり、多くの演劇人が反対の声をあげました。これを機に「大阪女優の会」を立ち上げ、戦争を風化させないためにも、「演劇は非戦の力」として毎年“あきらめない、夏”の公演を続けています。演劇の命は言葉です。言葉の対極に暴力があります。私達はあらゆる暴力を否定、平和を願う演劇人の集まりです。様々なジャンル、所属団体の枠を超え集まった演劇人が、創造の力と、表現の質を高め15年目を迎えます。

地主薫バレエ団 奥村唯 「人魚姫」の演技

(じめしかおるばれえだん おくむらゆい/「にんぎょひめ」のえんぎ)

(第3部門：洋舞・洋楽)

地主薫が選曲から行い、オリジナルで創った全3幕のバレエ「人魚姫」の主演・人魚姫を踊った。確かなバレエ技術に基づいた上で、繊細さと透明感を持った素直でていねいな踊りは、今後、数々の古典バレエ作品を踊り、観客の心に響かせるバレリーナとしての成長が期待できるもの。その持ち味を活かしつつ、様々な作品に挑戦してのさらなる飛躍が楽しみだ。



【略歴】2歳よりバレエを初め、平成18年地主薫バレエ団に入団。平成19年全国舞踊コンクールパ・ド・ドウ部 第3位。平成22年ソウル国際バレエコンクール Artistic Director 賞。平成23年京都バレエコンクール 第2位。平成25年モスクワ国際バレエコンクール DIPLOMA 取得。平成27年 THE DANCE TIMES でベストダンサーに選ばれる。韓国の李元国バレエ団「くるみ割り人形」にてゲストプリンシパルを務める。地主薫バレエ団では、「シンデレラ」「くるみ割り人形」「ワルプルギスの夜」などの主演を踊る。

関西歌劇団

関西歌劇団 第98回定期公演「皇帝ティートの慈悲」の成果

(かんさいかげきだん/かんさいかげきだん だい98かいていきこうえん「こうていていとのかみ」のせいか)

(第3部門：洋舞・洋楽)

モーツァルトの最後のオペラで愛と裏切りのシリアスな物語だが、小ぶりの円形劇場の空間で四方から観客の視線を浴びる演出が新鮮だった。さらに客席も活用して演者の魅力を身近に感じさせながら、役柄の心の葛藤を高揚した重唱とチェンバロを生かしたバロック調で表現して、オペラの上演形態に新しい可能性を開く画期的な公演だった。



【略歴】昭和24年春、指揮者・朝比奈隆を中心に関西の音楽家が集まり、旗揚げ公演《椿姫》で発足。以来、約70年の歴史を持つオペラ団体であり、多数の邦人作品の初演や海外の劇場との共同制作にも力を注ぎ、定期公演は平成30年には第100回を迎える。平成15年度文化庁芸術祭優秀賞を受賞。平成22年度大阪文化祭賞奨励賞を受賞。

※写真はデジタルデータもございます。ご入用の際はE-mailでお送りいたしますので、下記事務局まで電話またはE-mailにてご連絡ください。

■この件に関するお問い合わせ先■

【大阪文化祭賞事務局】

公益財団法人関西・大阪21世紀協会 文化事業部 城本、今沢

e-mail / shiromotot@osaka21.or.jp

TEL/06-7507-2002 FAX/06-7507-5945